西多摩医師会報

創刊　昭和47年７月　　第289号　平成９年１月

『富士のご来光』　稲垣壮太郎

目　次

		頁
1．年頭ご挨拶	宮川栄次	2
2．忘年クリスマス会	広報部	3
3．多摩地区医師会懇親会	広報部	6
4．西多摩産婦人科医会研修会	道又正達	7
5．理事会報告	広報部	8
6．会員通知・医師会の動き	事務局	10
7．各部だより		
西多摩学校保健連絡協議会報告	学校医部	12
都医学校医大会報告	学校医部	14
学術インフォメーション	学術部	15
8．文芸随筆諸事百般 「ウケモチノカミ殺し神話」	石井好明	17
9．地区だより		
羽村地区	真鍋　勉	19
あきる野地区	樋口昭夫	19
福生地区	田村啓彦	20
瑞穂地区		20
10．同好会短信		
写真部懇親批評会	田村啓彦	21
11．新人紹介		
藤野淡人会員		21
坂井也彦会員		22
12．伝言板		
音研からのお知らせ	道又正達	22
13．お知らせ	事務局	23
14．表紙のことば	稲垣壮太郎	24
15．あとがき	片平潤一	24

年頭ご挨拶

会長　宮　川　栄　次

あけましておめでとうございます。

皆様、新年をすこやかにお迎えのことと拝察致します。この一年間は、我々医療関係者にとって、是非明るい年でありますように願って止みません。昨年は暗いニュースが多くありました。病原性大腸菌による集団感染、薬害エイズ事件等々は、未だ解決し得ない諸問題を包含しています。昨年４月の診療報酬改定では、皆様はどの様な選択をされたでしょうか。新設された老人慢性疾患外来総合診療料に関しては、院外処方への移行を促進し、軽症患者に有利な点数配分になり、結果として投薬及び検査制限に誘導されかねません。老人外来の定額制は、従って、経営面だけで考えるべきでなく、長期的に見ると医師の診療意欲を低下させる恐れがあるのではないでしょうか。病院に於ける入院定額制も、同様の問題を含んでいます。又、小児科外来診療料も包括制となり、今後更に包括化が拡大する方向にあります。この定額制は、医療サービスを行うと利益が減る仕組みであり、医療従事者は、マイナス思考を余儀なくされるという欠点があります。今回の改定の特徴として、200床以上の病院で紹介状のない患者の初診に特定療養費制度が導入されたことです。このような制度が今後更に進むことが懸念されます。厚生省の医療保険審議会は先頃、保険医の定年制や定数制を導入することや、患者の自己負担を引き上げることにより医療費の節減を提言しています。このように見ますと、我々の前途は必ずしも明るくないことがよく判ります。市民の健康と医療の向上のため、信頼される医師をめざして頑張りたいと存じます。

当医師会の現況について一言申し上げます。会員の皆様の絶大なる御協力と御理解により、医師会の運営は順調に進んでいると思います。永井事務長はじめ、青木さん、鈴木さんも会のために張り切って勤務されています。感謝しています。又、各地区から選出された役員の諸先生方も、御忙しい中を月二回の理事会に出席され、真剣に御討議頂いています。この機会に深く感謝し、今後とも一層の御活躍を頂きたいと存じます。又、各地区長さんとの連絡会も随時開催したいと思っています。その折はよろしく御願いします。

定款施行規則改定検討委員会、互助会あり方委員会、情報伝達委員会も７月より発足し、各委員の先生方の英智で、医師会の今後の発展のために、すばらしい答申を頂けるものと期待しています。充分に時間をかけて慎重に協議して頂きたいと存じます。

これまでの総会は残念ながら出席者が少ないのが通例でした。私は、総会をもっと一大イベントとして楽しい活力のあるものにしたいと思っています。医師会の活性化のためにも、会長・理事の選挙をした方が良いという意見がありますが、如何でしょうか。小生の個人的意見ですが、会を二分しての選挙戦を思い出し、派閥抗争につながった過去のことが回想されてなりません。医師会は、心をひとつにして、何時も親密な仲間同志でありたいと願っています。数年前に先輩達の御努力で定款を改正され、本会での選挙をなくしたのも、そのことが根底にあったと聞いています。どうか若い世代の医師会を創造するためにも、勇気ある行動を切望します。

医師会の活性化とは何かということが問題になったことがあります。私は、医師会本来の実務、プラス楽しい憩いの場所と時間を共有する仲間が大勢いることが、医師会最大のメリットであると思っています。そして、それが活性そのものだと思います。

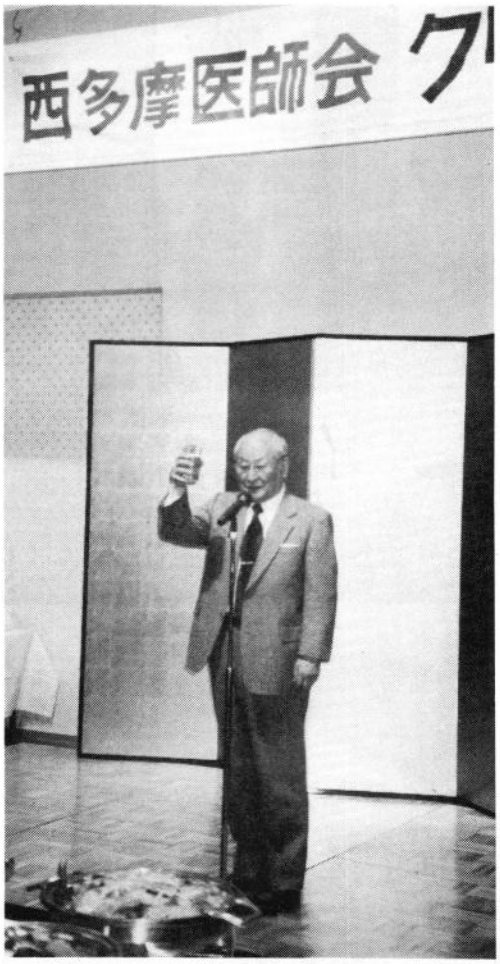
何事も前向きに、プラス思考で進みたいと考えています。明るい活力ある医師会のために、微力ではありますが、努力したいと存じますので、一年間よろしく御指導の程、お願い申し上げます。

西多摩医師会クリスマス会

各地区会、会員の相互理解、病診連携促進のモニュメントとして毎年恒例の西多摩医師会忘年クリスマス会が、12月16日(月) ホテル福生国際会館にて、会員、家族、職員合わせて180名の出席で開催された。サンタクロースに扮した玉木理事の司会で、宮川会長の挨拶に続き、青梅総合病院の星院長の音頭で乾杯が行なわれた。トナカイのめいぐるみを着た卞先生は汗だくになりながら、記念品を出席者に配って歩き、子供達の人気の的になっていた。今回、コロンビアレコードの「浜さち子とスリースターズ」の生演奏で、真鍋、内山、川崎先生方のデュエットも披露された。和気あいあいの中、道又先生と子供達の「赤鼻のトナカイ」の合唱も加わり、会は最高潮となりました。恒例の福引きはビンゴゲームで行なわれ、1等の液晶ビデオカメラは青梅総合病院の原先生が当てられ、16等までの各景品が次々と渡されていった。

最後に真鍋副会長の閉会の辞で会は終了しました。 (広報部)

宮川会長挨拶



星院長乾杯音頭

MERRY X'MAS

平成８年度多摩地区医師会懇親会

毎年恒例の多摩地区医師会懇親会が、本年は八王子医師会の当番幹事で、11月30日、京王プラザホテルにて開催されました。

東京都医師会の会長及び役員、東京都衛生局長、福祉局長、国会議員、八王子市長等、多くの来賓を迎え、多摩地区各医師会の役員等、凡そ200名程で盛大な会で、日大、昭和大学の医学部学生の室内楽バンドによる演奏の余興もあり、親睦を深めることができました。

来年は日野市医師会が当番となり開催の予定です。

（樋口）

多摩地区医師会懇親会次第

司会：八王子市医師会総務

開会の辞
八王子市医師会副会長
吉井　勇

当番会長挨拶
八王子市医師会会長
吉田敏久

来賓祝辞
東京都医師会会長
福井光壽様
東京都衛生局長
原山陽一様
東京都福祉局長
石川雅巳様
国土庁長官
伊藤公介様
衆議院議員
小林多門様
八王子市長
波多野重雄様

来賓紹介

乾杯
東京都医師会代議員議長
市川重彦様

懇親

余興
日本大学室内楽アンサンブル
昭和大学メディカルオールスターズ

次期当番会長挨拶
日野市医師会会長
清水淑郎様

閉会の辞
八王子市医師会副会長
金井清次

西多摩産婦人科医会研修会

去る、12月３日夕刻より割烹「かつら」にて（16名出席）行なわれました。

近藤会長、東京産婦人科多摩支部連合会会長と西多摩支部会長も兼務する東弁西走今が旬といった尾形先生、四役を勤める高野先生、学術担当の小島先生と順次主要研修議題を終了。急遽懇親会に切り替え三枝先生の乾杯、出席者全員の順番スピーチ、特別参加の内田智先生も加わり、葉山先生の七つ締めで楽しい一夜を過ごすことが出来ました。写真は傘寿プラス１を当日の前日に迎えられた近藤肇先生へ会員を代表して海老沢和子先生が花束を差し上げるシーンを撮ったスナップです。

（庶務　みちまた）

理事会報告　★ Information

12月定例理事会　平成8年12月9日　西多摩医師会館

【1】　報告事項

（Ⅰ）情報伝達効率化、定款施行規則改定各委員会報告　（玉木理事・真鍋副会長）

（情報伝達効率化検討委員会）

インターネットのデモを見つつ、討議を行なった。大筋で答申の方向性はできたので、答申案の詰めの段階で平成9年4～5月には答申できそう。

（定款施行規則改定検討委員会）

発案について検討した。総会での発議は不可。総会終了後の発案について自由討論という形でまとめつつある。互助会以外の問題については大体検討は終了した。

（II）自治体国保担当主務者との懇談会報告　（石田理事）

11月26日に各市町村の国保担当主務者との懇談会が西多摩医師会館で行なわれた。過誤調整額については、平成6年度に比べ平成7年度は10～20％減少している。市町村の国保審査の実務担当者の大半は嘱託であるとのことです。

（III）西多摩学校保健連絡協議会報告　（村山理事）

「各部だより」に詳述。

（Ⅳ）各部報告　（各担当部長）

（学術部）　12月10日三公立病院学術講演会予定している。

（広報部）　会報別刷問題については、編集部会議にて別刷発行はできかねるという結論になった。

（福祉部）　クリスマス会の出席予定人数、アトラクションについて報告。

（保険部）　介護保険の概要について報告。

（学校医部）都立高生徒の貧血検査の実施状況についてバラつきがあるようなので、調査して報告する。

【2】　報告承認事項

（Ⅰ）入会会員について　―― 承認 ――　（玉木理事）

（II）会費の減額申請について　（髙水理事）

山田先生77才になられたので規約により会費減額になる。　―― 承認 ――

【3】　協議事項

（I）西多摩地域保健医療計画推進協議会委員の推薦について　　（玉木理事）

平成8年11月より平成10年11月の任期で4名の委員を推薦との事で、宮川会長、唐橋理事、星先生、小机理事の4名で承認された。

（II）その他

○　**東京都地域保健事業連絡協議会（五者協）概要について**　　（宮川会長）

地域保健法改正に伴う、母子保健事業の都から市町村への移管にあたって、23区、市町村で統一を図る必要がある事業について協議する機関として、東京都、特別区、市、町村及び東京都医師会の五者で構成される。

○　**事務長手当について**　　（高水理事）

11月末までに結論を出す予定で継続討議する。

12月定例理事会　　平成8年12月18日　　青梅「芙蓉亭」

【1】　報告事項

（I）都医地区医師会長協議会報告（12月20日）　　（宮川会長）

1．医療費患者負担反対署名運動が日本医師会で行われたが、署名数はおおよそ290万名で、東京都は20万名であった。なお西多摩は2200名。

2．難病患者等居宅生活支援事業の実施について。特定疾患患者と慢性関節リウマチ患者などには国、都、市町村が経費を分担して入浴、食事、掃除などのホームヘルプサービス事業を行い、日常生活用具を支給することが平成9年10月から実施される。

3．「中小病院災害対策マニュアル」と病院での防災訓練の進め方のビデオが都医師会から発売された。大災害時の対応において有用である。また、災害時医療救護活動マニュアル－区市町村編が都より医師会に配布されたので活用されたい。

4．地区医師会地域医療及び地域福祉担当理事合同連絡協議会が12月5日開催された。この会では介護保険制度導入のねらいと背景、介護保険が提起する医師の新しい役割についてなどの説明があった。

5．厚生年金保険料について。一人医療法人に於ける厚生年金保険加入に関する事項について説明があり、詳しくは社会保険事務所に問い合わせるようにとのこと。

6．医事紛争事件概況について。かなりの事件があるが、大腸ファイバーの事故が多い。

7．副看護婦問題について各医療機関にアンケートが行われるので協力をお願いしたい。

（II）各部報告　　（片平理事）

（福祉部）　忘年クリスマス会報告。

(Ⅲ) 各地区会よりの報告　　(各地区長)

(福　生)　12月13日休日診療所忘年会を開いた。

(羽　村)　12月17日地区の忘年会を開いた。

(あきる野) 12月17日地区の忘年会を開いた。

【2】　報告承認事項

(Ⅰ) 入会会員について　　── なし ──　　(玉木理事)

【3】　協議事項

(Ⅰ) 西多摩歯科医師会B型肝炎予防接種の実施依頼について　　(玉木理事)

瑞穂地区では、歯科医等のB型肝炎予防接種は町の負担で実施しているが、他市町村の実態を調べ、歯科医師会の希望に沿うように、実施細則を事務局で検討する。

(Ⅱ) 青梅総合病院では青梅市医師会員からの紹介患者については、保険証を前日までにFaxで受け付け、カルテ作成を迅速にして、待ち時間を短縮するようにしている。今後、同様の手続を西多摩医師会会員全体にも広げたい。　　(坂本理事)

会員通知

○社会保険診療報酬振込銀行の変更について
○学術講演会 (12/10)
○第12回西多摩学校保健連絡協議会開催について
○第42回関東学校保健学会並びに第27回関東甲信越学校心臓病予防研究会神奈川県大会の開催について
○都医会学校医会第21回学校医大会開催について
○医療費の患者負担増に反対する意見広告の掲示並びに署名集めについて
○８年第３期会費の納入について
○会報
○東京都エイズ診療協力病院（拠点病院）の追加指定について
○アルブミン製剤の安定供給について
○保険者からの再審査請求に係わる再診査結果に関する減点事由の記載について
○私立学校教職員共済組合員証及び遠隔地被扶養者証の更新について
○平成８年度第２回胃がん検診読影従事者講習会の実施について
○ポスター（親乳福障医療証をお持ちの方へ）
○平成９年新年賀詞交歓会

各部だより

第12回 西多摩学校保健連絡協議会

平成８年11月25日
福生市民会館・公民館

1）挨　拶
　西多摩医師会学校医部長　村山　正昭
　福生市教育長　　来住野和也
2）報　告
　平成８年度学校環境衛生研究協議会
　高知大会報告
　　福生第５小学校長　　新藤　靖夫

講　演：「心の健康と学校」
講　師：東京都教育研究所教育相談部主任
多賀谷　篤　子

高度成長にともなう経済中心の追いつき追い越せの競争原理が大人の世界から子供の世界に下りてきている。すべてに中流意識が拡がったため、生活・行動が均質でなければならないとする傾向が強まり、個性的なのは良くない、変わった事をすると「いじめ」のターゲットになり易い状況が生じている。

「いじめ」の現実として運動、動作、成績の悪さがその対象となっている。生意気な子供もいじめられ易く、自分だけが「いじめ」に入らないことができにくくなっている。グループから外されないために「いじめ」に廻ることも数多く観察される。

このように均質化を追求しているなかに競争原理が働くため、子供の心には不満が渦巻いている。小中学校だけでなく幼稚園まで成績の良い悪いが評価の基準になっていることが親から子供に強く影響している。教育現場は過熱しており感情的にすらなっているので、昔であれば競争、葛藤から離脱して心のバランスをとる余裕があったが、現代では離脱の時間も場所もないために子供は心の切り変えができなくなっている。自分で自分の心を癒せないことが心の不健康を作っているともいえる。

「いじめ」を具体的にみると、中心人物はボスになっているツッパリ組であるが悪い事だという認識をもちながら面白いからやっている。悪いと知りつつ反応が面白くてやっている。ではファミコンのような娯楽ではどうかというと、楽しみとして充実感がないので面白くない。皆んなでワイワイやるのがいいという雰囲気である。

「いじめ」の収拾はどうかというと、その方法が解っていない。電話相談も受けているが男女関係が絡む場合など解決の技術が身についていないため深刻化する場合もある。このような人間関係の破綻は大人社会の子供への投影であり、解決のカギは学校にあるが学校の先生のメンタルヘルスも含め大人社会全体の責任でもある。

子供の健康へのイメージは大人と同じであって３～５才で大人と同じ恥・不安・嫉妬などの情緒が形成される。

心の健康とは①心や身体の調子がよい②人間関係に不安がない③自分に安定感がある④他人から信頼されている⑤自分の感情気分をコントロールできる⑥遊びや課題に集中できる、などに表現できる。

子供の問題行動を考える際に人間の自己実現欲求に注意を払う必要がある。自己実現の欲求が強いストレスにさらされて不適応状態に陥ると反社会的行動に走ったり、神経症、心身症になって不登校となることがみられる。逆に自我が強くストレスに適応的に反応できれば問題解決的に行動できるようになる。

問題行動の解決には子供のツッパリとやさしさの両面をみる事が大切で、十分な時間をとって子供の心の内面を理解してやって欲しい。子供の発達をみるには乳児期から思春期まで縦断的に観察する技術を身につけていた

だきたい。乳児期の安定した精神状態が大人という外海に船出するために大事であり、母子関係に分離不安があると外に出られなくなる。不登校の子供には３才頃の反抗期がみられない事例もあり、初めての集団参加にさらされる幼児期の基本的な生活習慣を確立して欲しい。児童期には同性との仲間体験が大切であり、これが欠けていると次の思春期に異性との問題を起こしやすくなる。

これらの発達課題をのり越えて大人に成長していくわけで進路問題を例にとると、問題児は進路についてどこ吹く風と無関心であり、親の意向を無視しているから不登校となり易い。子供にとって進路問題は学校生活の最終目標であり、親の意向と異なるために進路問題を適応的にクリアーできないと自己同一性（アイデンティティー）獲得に失敗することがある。（村山記）

第21回 都医学校医大会

平成８年12月11日
都医師会館講堂

静谷都医理事の司会のもと定刻より開催された。挨拶に立った福井都医会長は「和顔愛語」と大書された標語を背にたくましい体と豊かな心をもつ児童生徒を育成するため学校現場における徳育を強調された。

表彰式にうつり特別功労者14名、功労者15名、勤続30年52名の表彰がおこなわれた。被表彰者全員の紹介があり、西多摩医師会から小林康光先生が栄えある表彰を受けられた。

代表者の謝辞のあと諸岡日医副会長をはじめ来賓の挨拶があり表彰式を終った。当日は記念講演「世間からみたお医者さん」（三笑亭夢楽師匠）が大変好評であった。

（村山記）

平成９年度新年賀詞交歓会

1月25日(土)　午後６時
青梅市福祉センター

学術部 Information

《1月の学術講演会》

1　1月24日(金) 7^{30}pm～　於：西多摩医師会館講堂

演題名：「消化器術後のＱＯＬにおける漢方の役割」

講　師：神奈川県立がんセンター院長　岡　本　　亮 先生

岡本先生は、1959年横浜市立大学医学部卒業、同大第一外科入局、以後、神奈川県立成人病センター外科部長、神奈川県立がんセンター外科部長、副院長を歴任、現在に至っています。主な研究歴として、「抗がん剤による食道癌の新しい治療法」、「新しい胃癌手術術式の開発」、「癌の免疫学的治療法の研究」、「癌治療に東洋医学（漢方）の導入」などが挙げられます。以下、岡本先生のコメントを掲載します。

『がん診察における漢方の役割』

悪性腫瘍の外科学における最大の関心事は遠隔成績である。この遠隔成績向上のために悪性腫瘍の外科学は研究もされ進歩も見てきた。しかしそれに伴って手術に起因する障害の頻度も増大している。とくに消化器系統の癌腫の外科的治療においては単に癒着障害など局所的な問題に止まらず、精神的な活力を含む全人的なポテンシャルの低下についてのアフターケアーが重要な課題である。すなわち、こうした手術を受けた患者においては臓器機能の脱落、精神的抑うつに対して“補い”の治療が必要であり、外科医はメインの遠隔成績にたいする関心と同様にその後の日常生活の質が低下しないよう気を配る必要がある。このような観点から外科領域における漢方についての研究状況をみると、十全大補湯を始めとする漢方補剤が消化器術後のＱＯＬ改善に有用であるという報告が10年程前からみられるようになった。この背景にはこれらの漢方方剤による免疫能の低下防止や貧血防止、食欲改善などの諸作用があるものと考えられている。私共は実験的に、臨床的検討を通して、これらの作用を明らかにしてきたが、癌の手術後にたいしては、十全大補湯、補中益気湯、養栄人参湯などの補剤による漢方医学的対応が適している場合が少なくないと思われる。

2 **1月28日(火) 7^{30}pm～ 於：西多摩医師会館講堂**

演題名：「いびきと睡眠時無呼吸症候群」

講　師：杏林大学耳鼻咽喉科教授　長谷川　　誠 先生

長谷川先生は、1965年東京医科歯科大学医学部卒業、医歯大耳鼻咽喉科教室入局、1975年～76年米国ミネソタ州腫瘍手術・頭頸部外科手術等々研究に従事、1987年から睡眠時無呼吸症候群の研究を開始し、スリープスプリントを用いた新しい治療法を開発されました。1995年４月から現職で御活躍中です。

今回の講演会では、その最新の内容を聞くことができます。ご期待下さい。

〈学術講演会聴講メモ〉

平成８年12月10日(火)

三公立病院学術講演会

演題１：「末梢血管病変の診断と治療」

講　師：青梅市立総合病院外科　正　木　幸　善 先生

下肢血行障害の診断（臨床症状、触診・視診、跛行、ドプラー聴診器、Angiography, DSA）－(1) 急性動脈閉塞（ａ．血栓－ASO、人工血管閉塞、外傷、ｂ．塞栓－心房細動、ASO、心筋梗塞、動脈瘤)、下肢の変色部位で閉塞部位がわかる。Golden time は６時間以内でその間に治療を。(2) 慢性動脈閉塞（ASO 増加傾向、高齢者・50歳以上の男性・高血圧・高脂血症・高尿酸血症・間歇跛行多い。治療でPTA も行われる。TAO 減少、バージャ・病・タバコ・40～50歳の男性・多発性分節性閉塞・末梢動脈のため薬物療法が主)。(3) 腹部大動脈瘤（人工血管置換術等)。(4) 下肢静脈瘤（一次性－弁不全、二次性。硬化療法と手術療法)。

演題２：「当院胃癌の集計」

講　師：公立阿伎留病院外科　鈴　木　孝　寿 先生

胃癌外科手術症例の集計結果。初回入院116例（男72例、女44例)、70歳以上が57例で、合併症をもつ症例が多い。重複癌は５例であった。胃集団検診でみつかった症例は８％みられた。胃癌分類でみると、旧分類 stage Ⅰ、Ⅳが多く、新分類では stage Ⅰ、Ⅲ、Ⅳが多く、早期癌は25病変、陥凹性病変がみつかりやすい結果。その他、術後合併症、地域（秋川、日の出、五日市、桧原）の胃検診の結果等につき報告していただいた。地域の胃検診では要精検率が20％前後、日の出地区だけ４％であり、年々受診率が低下していることは問題である。

演題３：「Ｃ型慢性肝炎におけるインターフェロンの治療と現状」
講　師：福生病院内科　石　井　完　治 先生

現在日本では、慢性肝炎で120万人（このうち70％はＣ型）、肝硬変で25万人が治療を受けている。Ｃ型肝炎の原因をみると、輸血後50％、母子・性行為感染２～３％となっていて、唾液では感染しない。また、Ｃ型肝炎のキャリアーは50万人と考えられている。抗体の検出率は98％程度に向上している。インターフェロン治療について詳細の報告、著効率はⅡ型で30％、Ⅲ型で80％、石井先生はGOT・GPTの正常値は15以下と考えている、との報告もあった。

文芸随筆諸事百般

「ウケモチノカミ殺し神話」

（杏林大学公開講座「日本神話の系統」を聴いて）

石　井　好　明

近年、司馬遼太郎の歴史小説に熱中したりして歴史づいていたので、現代の学者は日本神話をどう解釈しているのか、興味をもって聴講に出かけてみた。

行ってみると、さすがにお年寄りが多く、女性は少なかった。素人なので誤解があるかも知れないが、聞きとれたことをまとめてみた。講師は伊藤清司先生。外国語学部教授だが、日本神話の専門家であるとのことであった。

古事記・日本書紀に書かれている「ウケモチノカミ殺し神話」が主題であった。（大辞林には、「ウケモチノカミ」とは保食の神・五穀の神・食物の神のことであると書いてある。）

日本書紀によれば、

> 天照大神（アマテラスオオミカミ）の命令で弟の月夜見尊（ツキヨミノミコト）が葦原中国（アシハラノナカツクニ）の様子を見に、高天ヶ原（タカマガハラ）から降ったが、そこで保食神（ウケモチノカミ）に会った。保食神は口から御飯・魚・肉を出して尊をもてなしたので、尊は穢（ケガラワ）しいと怒って保食神を殺した。これを聞いた天照大神は大変お怒りになって、「お前とは一緒に居たくない」とおっしゃり、以来、お日様とお月様は一緒に出ることがなくなった。大神は他の使いに様子を見に行かせたところ、死んだ保食神の頭から牛馬、額から粟、眉から蚕、目から稗、腹から稲、陰部から麦、大豆、小豆が生えていた。この報告を聞いた大神は「これで人々は暮してゆける」とお喜びになった。

ということである。

古事記にも、

> 天照大神の弟速須佐之男命（スサノオノミコト）を大気津比賣神（オオゲツヒメノカミ）が鼻・口および尻からいろいろな食物を出してもてなしたので、それを見た命が

> けがらわしいと怒って神を殺したところ、その頭から蚕、目から稲、耳から粟、鼻から豆、陰(ホト)から麦、尻から大豆が生えた。

という記載があるそうである。

こういう神話を、専門家は「死体化生物起源神話」といい、ドイツの神話学者イエンゼンが調査したモルッカ諸島の「ハイヌベレ神話」が元祖と考えれているらしい。

それは、

> アメタという男がイノシシを追った。イノシシは沼にはまって死んだ。イノシシの牙にココヤシが生えた。アメタは神のお告げに従って、それを持ち帰って植えた。花が咲いたのでとろうとして小刀でケガをして、血が花に滴ったら少女が生まれ、ハイヌベレと名付けられた。ハイヌベレが成長して大便をすると、それが貴重な品々に化けるので、アメタは金持ちになった。それをねたんだ村人がハイヌベレを殺して土に埋めたら、胃から壺、その他身体のいろいろな部分から、いろいろな芋が発生した。その芋が人々の常食になった。

という話である。

また、モルッカの近くの島には、

> お婆さんが体のアカをこすって食物を作っているのを見つけた孫が、食事をしなくなった。お婆さんは孫に、3日だけよそに行っているようにと言った。孫が帰ってくると、お婆さんは死んでいて、体のあちこちからヤシの木が生えていた。それが、その土地の常食になった。

という話である。

中国にも、呉・越のことを書いた漢時代の本の中に、ウケモチノカミ殺しによって穀類が生まれたという記載があるそうである。

長江流域から発生した稲作が日本に伝わったと考えられており、ハイヌベレ神話が変形しつつ中国に伝わり、稲作と一緒に日本に伝わり、古事記・日本書紀に書かれるに至った、と学者は考えているようである。

中国と日本の中継地と思われる朝鮮では、日本書紀に出てくる身体部位と化生物――頭と馬、額と粟、目と稗、腹と稲、陰部と小豆――は、それぞれ極めて似た発音の言葉であることも、傍証として述べられた。

排泄物（古代人も排泄物はキタナイと感じていたであろうことは、月夜見尊や速須佐之男命が怒ったという話からも明らかである）が食物になる、とか死体から作物が生えてくるなど、現代人からみれば余りに荒唐無稽（奇想天外）。神話といいながら余りに人間くさく、残酷な話（ギリシャ神話も人間くさいことでは似ている）だが、象徴的には関連づけられるのであろうか。

最近、白川静という漢字学者が「神話というものは歴史より遠い昔にあったんではなく、歴史が自覚されてから、その歴史を神聖化するために生まれるんです」と言われたが、奈良時代に天皇の命令で作られたという古事記・日本書紀の神話も、まさにそのようにして生まれたのであろう。

子供の頃、僕らは天地創造・夫孫降臨から神武天皇の東征に至る物語を、史実であるかの如く教えられたのだった。

地区だより

羽村地区　佐藤タミエ先生 傘寿の祝

11月26日、佐藤タミエ先生の傘寿の祝が福生国際会館で催された。宮川栄次西多摩医師会会長も来賓としてご出席され祝辞を述べられた。佐藤先生は西多摩医師会では現役最高年令であるが、出席会員からは「若くてお元気な先生」という感想が祝辞に溢れ、フィナーレに先生を囲んで「若い山脈」を全員で合唱し先生の益々のご健勝を祈った。

（文責　真鍋）

あきる野地区　忘年会報告

12月17日（火）秋川駅北口の「江戸一」にて、恒例の「あきる野市医師会忘年会」が会員及び市の健康課職員合わせて50名程で開催された。伊藤幹事の司会で、小机会長の挨拶、新井福祉部長の挨拶に続き、葉山会員の音頭で乾杯が行なわれた。予防注射や健康診断で顔なじみの職員の方々と医師会員、又阿伎留病院の先生方も多数出席され、懇親を深めた。恒例のビンゴゲームでは趣向を凝らした景品がもれなく配られ、あっという間の２時間で、更に２次会のカラオケに繰り出す盛況でありました。

（樋口）

福生地区　休日診療所忘年研修会

去る12月13日、福生市休日診療所忘年研修会が福生駅前の「あたみ」で開かれた。市の関係者も含め39名が出席し、平成８年度の休日診療所の診療状況を総括した後は、忘年会に移行し、例年の如く１次会、２次会とも大いに盛り上がった。　（田村）

瑞穂地区　瑞穂町医師会忘年会

恒例の瑞穂町医師会の忘年会を、去る12月３日午後７時からホテル福生国際会館で行いました。

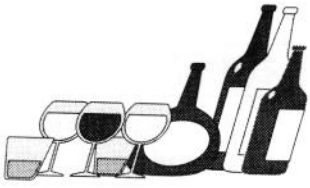
開会に先立ち瑞穂町医師会長高水松夫先生よりごあいさつが行なわれ、平成９年度からの母子保健事業移管に触れ、これからの医師会の協力体制を強く打ち出しました。

会の次第に添って、今年は特に瑞穂町医師会々員の長寿の祝を行い栗原三省先生へ記念品の贈呈を行いました。また看護婦さんより花束が贈られました。大きな拍手の中、栗原先生の人柄でしょうか、すてきな笑顔での、お礼のお言葉が大変印象的でした。

引きつづき小林康光先生の乾杯の音頭で懇親会が始まり、全員が起立し盃を上げ飲み乾した時大きな拍手で開宴されました。おいしい料理に舌鼓を打ちながら楽しいひとときを送りました。そして本日のイベントであります、ビンゴゲームが始まり皆様の手元へと、数々のプレゼントが届けられました。進行役の上手で楽しいゲーム運びで一同笑いの渦のなか、歌あり、スピーチありと、あっという間の２時間でした。

終盤に近づき、瑞穂町医師会の会計担当であります丸野仁久先生より１年間のご苦労や来年の抱負を述べられ、瑞穂町伝統の七つ締めで閉会いたしました。終始笑いがありとても楽しい盛り上がりのある忘年会でした。

ご参加の皆様ご協力ありがとうございました。　（瑞穂町役場　保健課職員）



同好会短信

西多摩医師会写真部懇親批評会

11月25日より12月１日まで羽村コミュニティーセンターで開催された西多摩医師会写真部の写真展も盛会裡に終了し、恒例の懇親批評会が去る12月６日、写真家の桜井保秋氏をお招きして羽村の「吹きよせ」で開かれた。今回の写真展には総勢14名による計55点という多数の作品が出展され、酒を酌み交わしながら一点一点についての講評や撮影の苦労話などが夜が更けるまで続けられた。（田村）

新人紹介

青梅市　藤野医院

藤野　淡人 会員

平成８年７月より、母・藤野芙美子を引き継ぎ、藤野医院で診療をさせて頂いております藤野淡人（フジノアワト）と申します。西多摩医師会の皆様には幼少の折よりお世話になり、無事この日を迎えられたのも皆様のおかげと存じております。

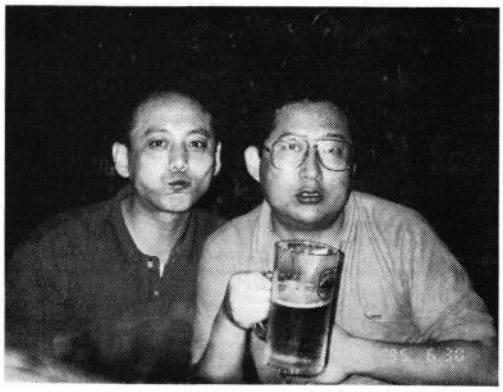
この12月８日で44歳になりますが、無芸大食、何の取り柄もありません。唯一、自慢の物として、今から15年前に、米国ヒューストンのベーラー医科大学病院に勤務していた際、患者として診察した、メジャーリーガー、ノーラン・ライアン投手（当時は、ヒューストンアストロズの投手）にサインをしてもらったアストロズのＴシャツがあります。

余暇には、ボーイスカウト活動の指導者、登山、スキーなどを楽しみます。妻・恵里（エリ）はガールスカウト活動、長女・未里（ミサト）（中学１年生）は合気道を、長男・和人（カズト）（小学３年生）はカブスカウト活動を、それぞれ楽しんでおります。

青梅市　坂井医院

坂井　也彦（ナルヒコ）会員

家族紹介せよとのことですが、全くの独身ですので自己紹介で許してください。昭和32年福岡県北九州市生まれです。４人兄弟の長男です。父は毎日新聞社の西部本社に勤務していました。今でも両親は北九州市におります。高校生時代は文系のクラスにいましたが、予備校時代に医学部志望に変更しました。大学は仙台の東北大学を昭和61年に卒業しました。３年間の臨床習練の後に、母校の第２内科（当時は吉永馨教授）の大学院に進学しました。専門は高血圧、循環器、脳梗塞などです。博士号取得後、アメリカ留学の選考に洩れたため医局を辞めて横浜に出てきました。そこで米国医師免許を取得しました。ハワイで開業してやろうという計画を練っていたのです。ところが、グリーンカードがなかなか取れません。青梅で開業する決心をしたのが今年の７月です。吉野先生のご協力によりテナントを貸していただき、11月の１日に開業にこぎつけました。整形外科、皮膚科も看板に出しておりますが、多少自信があるのは腰痛とアトピー性皮膚炎くらいです。上の妹は横浜双葉学園の教師です。下の妹は歯科医でしたが、現在は主婦専業です。弟は東京芸大を卒業後、埼玉県の長瀞で彫刻をしております。今後ともよろしくお願いします。



伝言板

❀❀ 音研からのお知らせ ❀❀

１月は、ライブ・ハウス『はっぽん』で懐かしの Country & Western を楽しむ研修を企画致しました。予約席となりますので、15日まで私にご連絡下さい。

ＦＡＸ：０４２５（５２）４１１４（随時）
ＴＥＬ：０４２５（５１）３６２６（午前中）
日　時：１月22日（水）午後７時～10時
場　所：国立市東１－15－32　市川ビル２Ｆ
『はっぽん』　TEL 0425(72)8888
交　通：ＪＲ国立駅南口下車（左側すぐ交番）
旭通り徒歩３分　うなぎ梅川２階
会　費：3,000円（軽飲食付）近隣駐車場あり

みちまた　まさたつ

お知らせ

事務局より お 知 ら せ

2月（1月診療分）の

保険請求書類提出日

2月8日（土）

―― 正午迄です。 ――

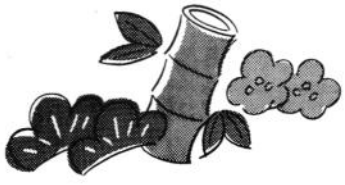
法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士　鈴木禧八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談下さい。

◎ **相談日**　**1月は8日（水）**
2月は12日（水）の予定です。
◎ 場　所　西多摩医師会館和室
◎ 内　容　医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎ 相談料　無　料（但し相談を超える場合は別途）
◎ 申込方法　事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

訂 正

前号で、平成9年度新年賀詞交歓会の日時を1月25日(土)　午後6時30分　と案内致しましたが、**午後6時**　が正しい時間です。
ここにお詫し、訂正致します。〔広報部〕



表紙のことば

『富士のご来光』

昨年の正月に本栖湖より見た富士のご来光です。

一昨年の暮れより正月にかけて6回ほど富士の撮影に出かけました。いつ行っても、富士が刻々と演じる荘厳なドラマには感激します。本栖湖畔はいつもカメラマニアで埋まっていました。

稲垣壮太郎

あとがき

明けましておめでとうございます。

昨年は集団的個別指導など以前にも増して非論理的な、「カネ」のためだけの厚生省からの脅迫がなされてきました。今年は社保本人の2割負担、老人の診療毎の定額化、保険料の増加、さらには医師の定年制など放っておいたら日本の医療が荒廃してしまう「医療改革」が目白押しです。その先に見えるものは勿論零細化した私達です。昨年氷山の一角が見えた厚生官僚の腐敗も一部のコトとして終わりそうです。西多摩医師会は、理事会は、さらに私達編集委員会は極めてしっかりした態度でこれに対処しなければなりません。

片平潤一

社団法人　西多摩医師会　　平成9年1月1日発行

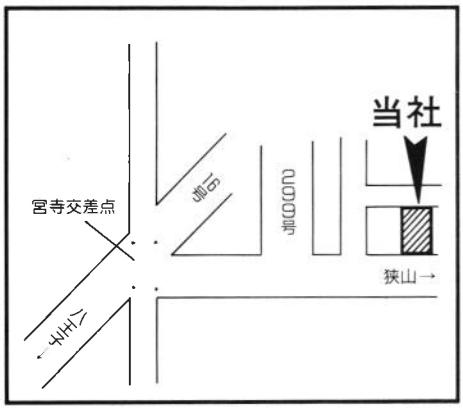
会長　宮川栄次　〒198 東京都青梅市西分3－103　TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会　樋口昭夫
石井好明　片平潤一　百瀬真一郎　高水松夫
田村啓彦　奥野　仁　小机敏昭

印刷所　マスダ印刷　TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

健康と未来をみつめて!!

医療機関における各種検査、学校、事業所の検診
御利用の際は御連絡下さい



埼玉県登録衛生検査所

武蔵臨床検査所

所長 杉田富徳

埼玉県入間市上藤沢３０９－８
TEL 0429（64）2621
FAX 0429（64）6659

RETAIL BANK
あさひ銀行

あなたの街のあさひです。

あさひ銀行

東青梅支店	TEL.0428－22－2121(代)	〒198	青梅市東青梅2－17－4
奥多摩特別出張所	TEL.0428－83－2515(代)	〒198-02	西多摩郡奥多摩町氷川1421
青梅支店	TEL.0428－22－1101(代)	〒198	青梅市青梅295
河辺支店	TEL.0428－24－2401(代)	〒198	青梅市河辺町10－2－9
福生支店	TEL.0425－51－1021(代)	〒197	福生市福生1048
村山支店	TEL.0425－61－1211(代)	〒208	武蔵村山市中藤4234
秋川支店	TEL.0425－58－2611(代)	〒197	あきる野市下代継111－5
羽村支店	TEL.0425－79－0881(代)	〒205	羽村市五ノ神4－13－10
五日市支店	TEL.0425－96－1311(代)	〒190-01	あきる野市五日市840－1